

第九拾七号

2007年 秋のやきもんまつり 11月1日(木)～4日(日)開催

春の陶器市がついこの間のような気がしますが、あっという間に半年が過ぎていってしまいました。私達の窯独自で秋のミニ文化陶器市を始めて、今回ですでに25回目を迎えます。過去24回を振り返ってみますと、感慨深いものがあります。第1回を始めるにあたって、お客様の強い要望がありました。春の市の賑わいだけではもったいないので、また春に来れなかったのでぜひ秋にも開いてほしいと熱望されました。半信半疑でしたが、秋は春の蔵ざらえとは少し趣を異にして開催してみたいと思いました。そして11月3日文化の日を中心に、たくさんのお客様へやきもの文化を提案して、心のおもてなしややきものを切り口にした豊かな生活提案の場としてとらえました。

第1回は、職人さん達に社内文化祭を開こうと呼びかけました。有田の職人さん達は手仕事に負うところが多く、器用な人が多かったので、隠れた才能を持った人達ばかりでした。書・絵画・写真・パッチワークなど、趣味の域を出た全ての作品に驚かされたり、秀でた人となりを通じた垣間見せられたりして、窯のおやじとして充実感を感じ、ひとり超に入っているようでした。くしくも同じ時期に町主催の文化祭が開かれており、まるでサテライト会場のような雰囲気になって、とても嬉しかった事を昨日の事のように覚えています。それから秋のミニ市や秋の陶器市と名称が変わっても、11月3日文化の日を大切に、この日を動かすまいとかたくなに守ってきました。有田の東地区では、共感した仲間がうーたん祭り(11月3日～5日)と称して今年もお客様をお迎えしています。昨年より町全域に広がり、名称も秋の有田陶磁器まつり(11月23日～27日)となって、有田の観光化の目玉になりつつあります。

しん窯でも昨年より名称変更し、秋のやきもんまつりとして再出発しました。行楽の秋のひとつきを、有田の自然と窯場情景を、ゆったりのんびり楽しんで散策して下さいと思います。もちろん市の目玉は青花の新作です。ご高覧いただければ幸いです。



趣味の園芸にて植木鉢採用

NHK教育テレビ趣味の園芸で、青花の「六方異人植木鉢」が大写しにされてびっくりしました。講師の小笠原誓先生の目に留まり、NHKプロデューサーの推薦もあったそうです。宿根アスターを育てるという番組でしたが、初めて草花と同じように日本の陶器や磁器にも目配りをしていただいて、鉢ルネッサンスにふさわしい本物の鉢をさりげなく提案して下さったのだと思います。私達も自信と誇りを持って、ますます有田焼の本物の鉢に挑戦し続けなければと思いました。

TAIZO展&有田の匂い

「地雷を踏んだらサヨウナラ」でこの世を去った故一ノ瀬泰造写真展が、生まれ故郷の武雄とライフワークとして取り組んだ有田で開かれます。今年の夏ミャンマーで凶弾に倒れたジャーナリスト長井さんの事件があまりに強烈で、複雑な思いです。二人に共通するものは、世界平和です。光と影は隣り合わせにありますが、影の部分映像でえぐり出そう、人間のむごさを赤裸々に写し出そう、そして一日も早く同じ地球人として平和が訪れるようにという強いメッセージでもあります。

TAIZO展 2007年11月1日～30日(15日休館)

午前10時～午後7時

武雄市図書館・歴史資料館

有田の匂い

2007年11月1日～30日

午前9時～午後4時半

有田町歴史民俗資料館

職人さんのひとりごと

～第13回・梶原大敬さん～

入社して1年半になります。今は主にロクロでやきものの形を作る仕事をしています。ロクロ成形で難しいところは、同じ形のものを何個も作る時全て同じ形・重さに作らなければいけないところです。そこには大変な集中力と精密さが要求されます。有田では昔から「土練り3年、ロクロ10年」と言われ、一人前の職人になるためには長い年月がかかります。これからも真心を込め良いやきものを作っていきますので、よろしくお願いします。

